

午後 試験

全問に共通して、“ユーザ企業・組織における課題への取組や問題点に対する具体的な解決策を求める問題”であり、この趣旨に沿って論述をすることが重要である。

問 1（事業施策に対応した個別情報システム化構想の立案について）は、事業施策を実現するために、様々な構築方法について検討し、個別情報システムの構想をどのように立案したかを問う問題であった。個別情報システム化構想の仕組みの検討結果については、おおむね具体的に論述されていたが、システム化構想の事業施策との関連性や、幅広い角度からの仕組みの検討についてまで論述したものは少なかった。

問 2（情報システム活用の促進策の立案について）では、システム活用が進まない状況や問題点の特定については具体的に論述されていた。しかし、原因分析の観点や真の原因の分析についての記述が浅いものや記述がないものが見られた。また、原因としてシステム要件の不備を記述したものや促進策としてシステムの機能改善に終始したものも散見された。

問 3（開発工程の遅延に対処するための組込み製品の企画の変更について）は、組込みシステム製品を対象とする新しいタイプの問題であったが、選択者は少なかった。多くの論述の内容が具体的であり、実際の経験を伺わせるものであった。ただし、一部に企画の変更時における分析の深さや検討対象の広さについての論述が不十分なものがあつた。